

○伊藤きよ子* 日下部信幸**

（*東海学園女短大 **愛知教育大）

目的 衣服が人に与えるイメージには、色とともに柄のイメージが大きく影響していると考えられる。そこで、基礎的研究として、基本的な衣服柄であるストライプ柄を取り上げ、ストライプの幅や傾斜角度、形の異なる試料を紙を用いて作成し、それらのイメージに差異があるかを検討した。

方法 ①ストライプ柄は黒と白の2色配色とし、ストライプ幅を5、10、20、40mmの4段階に設定した。②たてストライプを傾斜角度0度として、15度間隔に90度（よこストライプ）まで7段階の傾斜角度を設定し、計28種類の試料を作成した。試料の大きさは60cm×30cmである。各試料のイメージを、たてストライプはSD法により求め、その他はたてストライプの試料を比較試料として、それとの比較により求めた。評価は15の形容詞対による5段階評価とした。③傾斜角度30、45、60度の山形および谷形のストライプ柄を計24種類作成し、同一の傾斜角度をもつ②の試料を比較試料としてイメージを測定した。④結果は分散分析法、因子分析法を用いて分析した。

結果 ①40mm幅のたてストライプは、「強い、はっきりした、大胆な、ふっくらした、子供っぽい、丈が短い」などのイメージが強く、5mm幅は、その逆のイメージと評価された。②傾斜角度が大きくなるほど、たてストライプより「丈が短い」という評価が高くなった。また、ストライプを傾斜させると、たてストライプより「ふっくらした」イメージとなり、幅の広いストライプほどその評価は高かった。③山形および谷形ストライプは、比較試料より「派手な、活動的な、個性的な、立体的な」と評価された。